



学園だより

弘前大学は2019年5月に創立70周年を迎えます

巻頭言

弘前大学学長 佐藤 敬 02

研究室紹介 22

海外だより 24

新任教員自己紹介 26

けいじばんコーナー 29

編集後記 30

特集

新学期を迎えて

04

各学部長挨拶

人文社会科学部学長／教育学部学長／医学部学長

医学部保健学科学長／理工学部学長／農学生命科学部学長

新入生・在学生の声

人文社会科学学部／教育学部／医学部医学科

医学部保健学科／理工学部／農学生命科学部・農学生命科学研究科





入学式の告辞でも述べましたが、弘前大学を挙げて、新入生の皆さんを心から歓迎するとともに、お祝いを申し上げます。ご入学おめでとうございます。弘前大学は1949（昭和24）年に新制大学として再出発してから、来年2019年には創立70周年を迎える予定です。皆さんはこの伝統ある弘前大学の歴史を引き継いで下さることになったわけであり、そのことに感謝したいとも思っています。

さて、文部科学省は、国立大学に対する第3期中期目標・中期計画期間における財政支援のための（あくまで財政支援のための）枠組みとして、大学を3つの類型に分けています。第一に、弘前大学をはじめとする全国55の大学からなる“主として地域貢献を目指す大学”、第二として、東京芸術大学などの“特徴的な教育研究を実施する大学”、第三に、東京大学をはじめとする“世界レベルの教育研究を実施する大学”の3類型です。弘前大学は以前から「世界に発信し、地域と共に創造する」ことをスローガンにしてきたこ

ともあり、この3類型のいずれかを選択するにあたっては、きわめて自然に第一の類型を選びました。

学生諸君と私たち職員を含め、弘前大学はこのことに自信と矜持を持って臨むことが必要です。この地域と連携した教育研究を進めることは、弘前大学においてのみ可能なことであり、その意味では、世界唯一の大学なのです。また、このことは、弘前大学の教育研究活動が地域に限定されたものであることを意味しません。皆さんは、弘前大学でしばしば地域のお世話になりながら、自由に多くの学びを経験し、そしてやがては地域で、全国で、あるいは世界で活躍する人材として自らを育て下せることが重要です。弘前大学は地域と共にある大学であることは間違いありませんが、そこで学び、研究に携わることの成果は世界に通用するものであり、そのようなレベルに高めていくことは私たち全員の責務です。加えて、皆さんの今後のキャリアがいかなるものになるかは、何処で学んだかではなく、一にして、皆さん自身がどのような姿

勢で学んだかに係っていることを自覚されるよう願っています。

地域と共に歩む弘前大学にとっては、地域全体が元気であることも重要であり、大学としてもそのために努力すべきです。幸いにして、青森県はいろいろな可能性を持っており、農水産物輸出や海外からの観光客など、既に成果が明確になっている分野もあります。しかしながら、人口減少についてはそれを止めることが難しいと思われ、国の支援の下、COC（Center of Community）やCOC+の取組によって、少しでも若者の地域定着を増やすことを目指しています。残念ながらこのことは、大学単独の取組によって達成するのは難しいと思われ、地域の企業や自治体など、地域全体との連携、協力をいただくことが不可欠です。そのような取組によって、学生の皆さんが本当のやりがいと使命感を持って地域で活躍できるための環境を創り出すことが最大の目標であると認識しています。

地域人材の育成において、国際化が不要ということはまったくありま

ようこそ弘前大学へ

弘前大学長 佐藤 敬



せん。間違いなく必要なのは、大学内における教育そのものの国際化であり、それは、例えば将来皆さんが海外で活躍するために必要なのではなく、一義的に学問そのものが広い視野の下に、多様な学びを目指したものでなければならないからです。そして現在では、更に別な意味での国際化が求められてもいます。地方といえども、世界との結びつきが強くなっており、今後ますます強くなっていくのは間違いありません。あらゆる分野の人材に対して国際的視野が一層求められるようになっていきます。したがって、国際的視野を身につけるためには何が必要かを是非考えて欲しいと思います。もちろん、海外留学の機会を持つことができれば、多くのことを経験でき、そのことが皆さんに多くの成果をもたらすものと思います。それでは、海外を経験しなければ国際的視野を身につけることができないのかといえば、まったくそうではありません。さまざまな人や情報に接し、また先人の業績を消化・吸収することを通して、自ら意識した課題について自ら調べ考える機会を数多く持つといった作業がなければ、海外に行ったとしても観光旅行と同じだと思います。観光旅行の意義を否定するものではありませんが、少なくとも学生生活の中で我が国の将来を担うべく自らを育む作業としては、皆さん自身の学びの姿勢が最も大切です。皆さんは、大学生というある意味では恵まれた状況の中で、少なくとも当面は、学ぶことの具体的成果

を求めることなく、むしろ学びの機会を数多く求めることに貪欲であって欲しいと願っています。学びの成果は間違いなく後からついてきます。

「為せば成る 為さねば成らぬ何事も 成らぬは人の為さぬなりけり」というのは江戸時代の米沢藩主、上杉鷹山の言葉と伝えられています。私はこの言葉を座右の銘にしているわけではありませんし、特に前半の「やる気」、「努力」とでも置き換えられる部分はその通りと思いますが、後半部分に関しては、「自分の責任」という考え方を大切にしたいと常々思っています。たとえ理想的な環境の中にあっても、自ら行動しなければなんの成果も得られません。弘前大学の現実に立ちかえって、皆さんの勉学のための環境を整え、最大限の支援をするのは私たちの役目であり、その目標に向かって少なくとも努力していると言いたいとは思いますが、皆さんが学成り、立派に成長するのは、一にして皆さんの努力にかかっているという思いを大切にしていきたいのです。もちろん、個人の力だけで解決できない問題にも数多く出会うことでしょう。そんな時、学内であれば学友や教職員の力を借りることに積極的であって欲しいのですが、主体は皆さん自身であることを忘れないよう願っています。

上にも述べた通り、弘前大学は創立70周年を迎えようとしています。地域からの大きな支援の下に、長きにわたって弘前の地で教育研究活動

を続けて来られたことは私たちにとって幸いであったと思います。学生の皆さんも、文化と歴史の薫りが高く、自然に恵まれた弘前の地で学ぶことのできる幸せを胸に、将来のキャリアが如何なるものになっても、それぞれの立場で、弘前大学の新たな伝統を創造して下さるよう期待しています。そして、弘前大学生としての皆さんの日々が実り多いものになるよう祈っています。



新学期を迎えて

各学部長挨拶

人文社会科学部

「自然は隠れることを好む」

— 新入生の皆さんへ —

人文社会科学部長 今井 正浩



新 入生の皆さん ご入学おめでとうございます。人文社会科学部長の今井と申します。専門は西洋古典学（ヨーロッパ文化の源流としての西洋古典古代〔古代ギリシア・ローマ期〕の歴史・文化を研究する学問）です。どうぞ、よろしく願いいたします。

弘前大学人文社会科学部（Faculty of Humanities and Social Sciences）は、平成28年4月に人文学部（当時）から改組され、本年度で三年目をむかえます。平成30年4月には274名の新入生諸君を人文社会科学部の第三期生としておむかえすることができました。学部長としては、嬉しいかぎりであります。皆さんを心より歓迎いたします。

わたくしたちが人文社会科学部を設置した目的はきわめて明確であります。すなわち、人文学部が北東北地域の人文社会科学分野の高等教育と研究の拠点として、過去50年間にわたって果たしてきた役割をより大きく充実発展させることにあります。それは、多様性認識のもとで自国の歴史文化を正しく理解し、地域の文化を含めた自国の文化を創造・発信する力を養うとともに、地域の諸課題を含めた現実の課題の解決するための実践力を備えた、次世代の担い手となりうる人材を育成していくことに尽きます。

わたくしは、1996年4月に、当時の人文学部に西洋古典学の専任教員として赴任してきました。北国特有の厳しい自然環境の中で、多くの先人たちによって長い年

月を経て、脈々と育まれてきた豊かな歴史と文化に深い感銘を受けました。皆さんは、北東北の文化の香り豊かな弘前市で大学生活を送られることになる訳ですが、先人たちが築いた歴史の重みを実感しつつ、真摯に勉学に励んでいただきたいものです。弘前大学は、皆さんのそのような思いに添えてくれるはずです。

冒頭に引用した「自然は隠れることを好む」という言葉は、紀元前500年頃の古代ギリシアの哲学者ヘラクレイトス（Herakleitos）の一節です。ヘラクレイトスの言葉は非常に難解であったことから「暗き人」などと呼ばれていました（「根暗な性格の人」であったという意味ではありません一念のため）。ここに引用した言葉は、ヘラクレイトスの言葉の中でも珍しくわかりやすいものの一つです。「自然」（ピュシス）というのは、物事の本質のことを指しています。つまり、「物事の本質というのは目に見えないところであって、物事の表面だけを見ていては真実を見きわめることはできない」ということをヘラクレイトスのこの言葉は伝えています。皆さんも、これから長い人生を生き抜いていく上で、上辺に囚われるのではなく、物事の本質を見極めることのできる眼力を養うことを通して、自分自身をしっかりと見つめ直し、自己を成長させていってほしいものです。

皆さんが、弘前大学において、心身ともに充実した学生生活を送られることを心より願います。

1 年生の皆さん、弘前大学へのご入学、心より歓迎いたします。この稿が皆さんへ届く頃には、キャンパスから見える山々の木々の緑も、陽光のもと日増しに輝きを増し、名峰岩木山の頂を覆う雪も、日毎に少なくなっていく頃でしょう。

さて、大学周辺の景色も日々変化をしていきますが、皆さんの生活も大きく動き出していることと思います。入学からの1か月間は、大学生活の第一歩です。まずは、ガイダンス等により、大学の教育システムを理解することからはじめました。学年・教科ごとに系統化され、時間割によって管理されている高等学校の授業カリキュラムから、興味や専門により授業科目を選択し、自ら学びの設計を行う大学での授業カリキュラムへの対応は大変であったろうと想像します。言うまでもなく大学は、高等教育機関であり、高等学校の基礎的な学力をもとに、さらに幅広い教養と高い専門性を身につけることを目的に教育研究が展開されています。そして、それは大学に通う学生の皆さんの自主性と主体性のもとに成り立っています。

現在、小学校から高校まで盛んにアクティブ・ラーニングを中心とした自主性・主体性の向上を促す教育がなされています。しかし、大学はアクティブ・ラーニングの有無に関わらず、高等学校の教科科目を他律的、依存的に「教わる」勉強から、学問分野を自ら選択し、自律的、自立的に学ぶこと、すなわち「学問」を志すことになります。その証拠に大学を卒業する時には「卒業証書」ではなく、専攻する学問分野に対応した「〇〇学士」という「学位記」が授与されます。この意味からも、皆さんは「生徒」から

「学生」へとステップアップしたわけです。

話はわかりますが、最近、良く耳にする話題に、「今後10から20年程度の間で、半数近くの仕事が自動化される」(C. B. Frey and M. A. Osborne, 2013)等、AIの急速な発達による産業構造の変化と、それに伴う職業淘汰に関する問題提起があります。実際問題としてどのような結果となるかはわかりませんが、私たちの身の回りでは、情報化やグローバル化がかつてないスピードで進んでいるのは確かです。このような変化への対応が迫られる中、皆さんがあるべき姿として最も重要なことは、この先の人生において、生涯、「学び続ける」ということです。

人類の誕生については諸説あり、未だ専門家による研鑽が続いているところではありますが、われわれの直接の祖先であるホモ・サピエンスについては、約20万年前に出現したとされています。その後、人類は様々な自然の変化や社会の変化に適応しながら歩みを続けますが、産業革命以降の200年間、社会の変化は急加速をしています。特にこの30年間は、国際化、情報化、科学技術等が想像以上のスピードで進んでおり、今後、さらに工業化社会から情報化社会へとパラダイムシフトしていきます。このように様々な変化の激しい社会を生き抜くためには、常に学び続け、学んだことをそれぞれのレベルで人生に役立てていくことが重要です。人類が現代に生き残り、他の如何なる動物よりも知的で高等な社会を構築できたのは、その特徴でもあるように思考、判断、表現を可能にする発達した大脳を持ち、取り巻く環境の変化に巧みに適応していった結果と言えるでしょう。

大学では、「生徒」だった高等学校時代とは異なり、答えが一つとは限らない課題や未知の課題に対し、既存の知識や能力を総動員したり、新しい知識・能力を身につけたりし、果敢に挑戦することを望みます。そして、bestな、時にはbetterな選択をして答えを導き出し、その答えに責任を持つとともにまわりの人と共有し、それぞれの資質・能力に応じた関わり方をする。それが、「学生」であり「大人」であると考えます。

4年間の自分の成長を信じて、自主性・主体性を持って学生生活を送ることを切に希望します。

教育学部

「生徒」から「学生」へ

教育学部長 戸塚 学



新学期を迎えて

各学部長挨拶

医学部医学科

『科学と感性』

医学部長 若林 孝一

弘前には美しい四季があり、美しい風景がたくさんあります。日本一の桜もその一つですが、このような地で学ぶことができる新入生の皆さんは幸せです。そして、本当に豊かなもの、美しいものに出会い、感性を磨いてほしいと思います。

弘前大学医学部は1944年に青森市に設立された官立青森医学専門学校を母体としています。この青森医専は戦災により、その存続が危ぶまれた時期もあったのですが、弘前市に移転して命脈を保ち、1948年には弘前医科大学に昇格し、1949年に現在の形の弘前大学医学部となりました。東北では二番目に設立された医学部であり、これまで医学科では6,544名の卒業生を世に送り出してきました。

さて、皆さんは大学生となったわけですが、高校までの勉強と大学入学以降のそれとを比べた場合、最も異なるのは「自ら学ぶ」ことではないかと思います。これからは「何が問題なのか」「その問題を解決するためにはどうすればよいのか」を自ら考え、実行することが必要になってきます。そして、勉強したことを学問や研究へと発展させていってほしいと思います。

皆さんは医師を目指しているわけですが、医学は科学の一分野です。したがって、すべての医師は同時に科学者や研究者であってほしいと思います。ただ、科学がすべてかという、私はそうは思いません。科学と同じように重要なものがあります。それは「感性」です。

人類が月に到着できたのは科学技術の進歩によるものです。しかし、それを可能にした人達は子どもの頃、月ではうさぎが餅をついていると教えられたのではなかったか。そのような子どもが、月には何があるのだろうか



想像し、月にゆく夢を思い描いたところから、月面着陸は始まったと思うのです。つまり、月面着陸を実現したスタートは「感性」であったと思います。科学が万能でないことは、科学が進歩しても戦争を止めることができないことを思えば容易に理解できると思います。

私は科学を否定するものではありません。むしろ医学や医療の発展には科学の進歩が不可欠であると思います。今後は医療の世界にもAIが取り入れられてゆくでしょう。しかし、医療を行うのが人間であるならば、そこには「科学」と同時に「感性」も必要であると思うのです。極論を言えば、現代医学では治療法がなくとも、医師と患者の関係はそこから始まるのです。

それでは「感性」を磨くためにはどうすればよいのでしょうか。ゲーテ（ドイツの文豪、1749～1832）は「感動は人間性の最上の部分である」と言っています。開高健（作家、1930～1989）は「森羅万象に多情多恨たれ」と書いています。感動をもたらすものは十人十色でしょうが、書を読み、人と出会い、旅をし、様々な経験を通して、どのように感じている自分がいるかを自覚することでしょう。人生には無駄な経験などないと思います。

皆さんには将来、困難なこと、稀なことにもぜひ挑戦してほしいと思います。そのためには科学的態度と同時に感性も磨いてください。卒業式では皆さんの大きく成長した姿が見られることを願っています。

新 入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。
入学時の皆さんの期待にあふれる表情、キラキラと輝く目を見て、皆さんを保健学科学生として迎え入れたことを本当に嬉しく思いました。入学時の気持ちを忘れずに、これから充実した学生生活を送っていただきたいと思います。

ここ弘前市は、おいしいリンゴの産地として大変有名ですが、欧米では、リンゴが大学や教育のシンボルとされている事を皆さんはご存知でしょうか。リンゴを輪切りにしますと中心の種のあるところが星型に見えます。そのため、リンゴを輪切りにするのをスターカットというのだそうです。その理由は、皆さんの一人一人の中にも将来星のように輝く素質が秘められており、その素晴らしい素質を見つけ、磨き、光り輝くように導くのが教育や大学の役割であるためだそうです。皆さん一人一人が素質を伸ばし、4年後には立派な卒業生として巣立っていきける様に私達教職員は精一杯指導や手助けを致しますので、皆さんも自分の目標を持ち努力をしていただきたいと思います。

皆さんはこれまでも自ら勉学に励み、合格通知を手にしたことと思いますが、励まし支えてくれたご家族や友人、指導して下さった先生方への感謝の気持ちも忘れないでいただきたいと思います。さらには合格できずに涙をのんだ受験生がいたということも心の片隅に置き、弘前大学の学生であることに誇りをもち、恵まれた環境を生かして、研鑽されることを期待しています。

保健学科は医療系専門職の教育を行う学科ですので、



皆さんはそれぞれの専門職を目指して学業に取り組んでいくことと思います。卒業時に各自が目指す専門職の国家試験を受験するためには、卒業までに必修科目である講義や実習の単位を沢山取得しなければなりません。全員、国家試験に合格するように互いに助け合いながら学業に励んでいただきたいと思います。また、学業だけではなく、部活動、ボランティア活動など、学業以外の活動へも皆さんの能力を余すところなく発揮し、多くの経験を積んでいただきたいと思います。ぜひ他の専攻や他学部の友人も作り、職種によるアプローチや考え方の違い、また患者さんや一般の方の気持ちも理解できる、広い教養や見識、思いやりの心を身に付けていただきたいと思います。以前に私と同様に放射線技師養成教育に携わっている他大学の教員から、“保健学科の隣に大学病院があることはとても恵まれていることなんですよ。医療従事者の卵である学生にとっては、通学の際に具合が悪い患者さんが通院する様子を見る事も色々なことを学べる貴重な機会なのですよ。”と言われ、この保健学科が恵まれた環境にあることに改めて気づかされたことがあります。自分が健康であると患者様の複雑な気持ちに思い至らないこともあります。医療職に就くための素養を学生時代に備え、巣立って行ってください。

大学での講義時間は90分と長く、教わるだけでなく自ら学ぶ姿勢も必要とされます。また、皆さんの中には親元を離れ寮生活や一人暮らしを始めるなど生活環境が変わった方もいることでしょう。このような変化に早く慣れ、体調管理にも気を付けて、有意義な学生生活を送っていただきたいと思います。弘前は歴史のある城下町で都会のような喧噪もなく、街の大きさも学生生活を送るには適しているのではないのでしょうか。また、弘前周囲には豊かな自然もありリフレッシュできます。皆さんがいわゆる“五月病”にはならない事を祈るばかりですが、万が一、ホームシックや五月病にかかった際には、一人で塞ぎこまずに是非周りの友人や家族などに相談して下さい。また、周りにそのような同級生がいたら、是非優しく声をかけてあげてください。

新入生の皆さんの学生生活が真に実りあるものになることを期待し、学科長からの歓迎の言葉とさせていただきます。

医学部保健学科

新入生の皆さんへ

医学部保健学科長 齋藤 陽子

新学期を迎えて

各学部長挨拶

理工学部

新入生の皆さんへ

理工学部長 佐藤 裕之

新入生の皆さん、あらためてご入学おめでとうございます。新しい環境での生活も数週間が経ちました。期待していた大学生活を送ることができているのでしょうか。現実の中には、思い描いていた理想とは違っていただけもあると思いますし、一方で思いもしていなかった機会があることにも気づかれたのではないかと思います。

私が大学生として過ごした1980年代の大学は、今の大学とはいろいろと違っていたように思います。キャンパスは綺麗とは言えませんでしたし、入学式も執り行われることはありませんでした。淡々とガイダンスから始まった大学の生活でしたが、振り返ると思いがけない出会いに恵まれたことにあらためて気づきます。

入学して数週間で過ごすうちに驚いたことは、大学にはいろいろな人が集まっているということでした。全国からいろいろな経験や基盤を持つ同級生や先輩が集まっているということもそうでしたが、到底私には持ち得ないであろう能力を持っている人が身近にいるということは印象的なことでした。工学部の学生でも、和洋問わず美術に造詣が深く溢れ出る知識の止まることのない先輩や、語学の堪能な同級生の聴く力や話す力の驚くほど巧みなことには、ただただ感心するばかりで、到底真似できそうにないと感じたのです。教養と言えよいのでしょうか、理数以外の力にも余裕を感じさせる人の少ないことに、総合大学らしさを感じました。

私は、ある専門分野に興味があり大学に進学することに決めたのですが、1年生の講義には私の興味のある専門科目の講義は少なく、教養教育として文科系と語学の講義の多いことには正直なところ閉口させられました。もともと興味の乏しいこともあって、単位取得のためだけに勉強を強いられたように思われたのです。工学部の学生といえども大学生が学ぶべきこととして設定されたいろいろな分野には、必修科目として設定されていなければ自分から近づくことはなかっただろう科目ばかりが並んでいました。法学や社会学の話は聞いていても当時の私には興味の持ちようもなく、漢文の原稿用紙30枚



のレポートには途方に暮れる感じさえしたのですが、もともとの興味の乏しいこともあって一層苦しく感じられました。このように思っていた学生は私ばかりではなかったと思いますが、これらの科目を学ぶことに大切な意味があることにずっと後になって気づくことになったのも、私だけではないと確信しています。

嫌々の授業の多い1年生でしたが、行けば面白い経験ができる場所があったのも大学でした。図書館に行けば古い新聞や雑誌のアーカイブがありましたし、その中には幸い私の好きな専門分野に関するものも蓄えられていたのです。学部の学生には若干の制限が課せられてはいましたが、苦勞することなく古い書誌を閲覧できたことは面白い時間を過ごすには十分でした。当時は今のIT技術を支える基本的な発明や技術が成長し始める時代でしたから、少し勉強するだけでも新しいアイデアを思い出すことができたような気がしましたし、同じようなアイデアが紹介されている雑誌に触れることもできたのです。最先端の研究がなかなか一般の目にはとまらないことや、本当の最先端の研究に触れたり理解したりできるようになるためには多くの専門科目を勉強しなければならないことに気づいたのはもう少し後のことですが、いろいろなことを考えながら面白いと思える時間を過ごすことができたのは、大学生になったことを実感できた経験のひとつです。

多くの新入生の皆さんにとって、大学での時間は生活の中の主要な時間であると思います。学生として過ごす毎日が大切な時間であることは実感しにくいかもしれませんが、20年30年を経たのちに、よい大学時代を過ごしたと振り返ることができるような大学生活を送ってほしいと願っています。

御 入学おめでとうございます。

弘前の地に来ていただいたことを、さらにこの学部を選んでくれたことに対し感謝いたします。弘前は、りんごとさくらとお城で有名な城下街です。今年は、弘前公園の桜祭りが開始され100年目になる記念すべき年です。弘前の地は、春の桜祭り、夏にはねぶた祭り、秋には白神山地や八甲田などの紅葉、冬にはスキーなどのスポーツが楽しめます。梅雨や夏の暑さも仙台以南に比べ優しく過ごしやすい恵まれた環境で、勉学に専念できる良いところです。

皆さんの中には、自宅を離れ一人暮らしを始めた人も多いでしょう。これまで家族に囲まれ、多くのことは両親に頼ってきたと思います。これからは、食事や洗濯などの身の回りの全てを自分で行うこととなります。食事の支度などこれまで母親が世話してくれ、何不自由なく暮らしていた環境から、全てを自分ですることになります。3度の食事の準備を考えると、母親の凄さが身に染みるのではないのでしょうか。また、一人で食事をする事になり、これまでけんかばかりしていた兄弟や家族のありがたみを知ることになると思います。また、友達と食事をする友人のありがたみを身に染みて感じられることでしょう。勉学以外にも、これまで体験できなかった多くのことを大学では知ることになります。料理などにも積極的に挑戦し、得意料理の一つも作れるようになって、家族を驚かせてください。



私は、一昨年長崎のシーボルト記念館を訪れる機会がありました。これまで、歴史の出来事としてシーボルト事件は知っておりましたが、この方はドイツ生まれで、日本にあこがれ、出島に来て日本医学の発祥の祖になったということを知りました。1823年にオランダ船で長崎に来て、人材の養成や日本の動植物の調査をし、帰国後、「日本植物誌」と「日本動物誌」を出版しております。当時のヨーロッパから船で日本まで来るといふ夢を実現するということは、相当な覚悟とあこがれがあったものだと思います。このような挑戦は、若さ故に成しえたものではないかと考えております。皆さんも在学中に何か一つ心に残る挑戦をしてください。

弘前公園のさくらも当初は、現在のような管理ではなかったと聞いております。弘前城本丸の一角に、『昭和35年に樹勢が弱っていた桜の木を剪定し、かつ肥料を施すという、それまでの常識を覆す方法に挑戦し、樹勢が回復した』と、ということが書かれた説明板があります。そこには、『諺の「さくら切る馬鹿、梅切らぬ馬鹿」という常識を覆しての取り組みだった』と、書かれております。弘前のさくらの今日の隆盛にはそうした先人の多くの挑戦が隠れているのです。

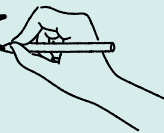
皆さんもそれぞれの夢に向かって、いろいろなものに挑戦する4年あるいは6年であることを期待しております。

最後に、新しい暮らしの始まりに際し、このような教育の機会を与えてくれた両親や先生方に感謝の気持ちを忘れないでほしいと思います。

農学生命科学部

「いろいろなものに挑戦しよう」

農学生命科学部長 佐々木 長市



今日は、岩木山は見えるであろうか。



河原 瑤子
社会経営課程1年

大学に通う時、帰る時、毎回無意識にも見てしまいます。もう、5月であるけれど、山頂付近はまだ雪の笠をかぶっていて、それが弘前の寒さを視覚的に引き立たせています。霧や雲のせいで見えたり見えなかったりする岩木山に少しばかり一喜一憂しながら、新生活を満喫しております。

私は、全学硬式テニス部に入部しました。高校時代の不完全燃焼で終わった分を取り返そうと（私なりに）気合十

分で練習に臨んでいたのですが、入部一週間で一年半のブランクが祟り、怪我をして二週間の休養をとる羽目となりました。この先が思い遣られます。女子テニス部の目標は『全国王座出場』というものです。新たなスタートとして前を向いて練習及び自主練習に精一杯挑もうと思います。

さて、入学式の後ヒロロの前で私、母、ともに涙ぐみつつ、東京に帰っていく母の背を見送って一カ月が経ちました。家事全般を全て自分でやらなければならないのは面倒だと思っていましたが意外な事に楽しく、主婦業に向いているかもしれないと考えることがあります。（一時的な錯覚かもしれませんが。）母が別れる寸前に私に言った一言を噛み締めつつ、大学生生活を素敵なものにしたいと思う今日この頃でございます。

挑戦



齊藤 巨
文化創生課程1年

弘前大学に入学して早くも1ヶ月が経ちました。大学生活や一人暮らしの生活に慣れ、毎日楽しく過ごしています。

私は大学生活で挑戦していることが2つあります。1つは料理をすることです。今までの生活では親に作ってもらった料理を食べるだけでした。しかし、これからの

生活では料理を自分で作って食べるのが重要になります。また、食べたいものだけを作って食べるのではなく、

野菜を含んだ料理を作るように心がけることで体調管理にも気を遣っています。

もう1つは青森県にある営業中のすべての鉄道駅を訪れることです。この「鉄道駅をすべて訪れる」という行為自体に特に意味はありません。また、時間もたくさんかかります。1日かけたとしても、青い森鉄道や五能線といった営業距離が長い路線はすべての駅を訪れることが困難です。しかし、意味がないからこそ、時間がかかるからこそ大学生活の間にやりたいのです。今までの生活と比較して大学生活は自由な時間がたくさんあります。このような時間は大学を卒業した後にはなかなか得ることが難しいものだと思います。

この貴重な4年間を無駄のないように過ごしていきます。

『新しい春を迎えて』現在



目谷 晴斗
文化創生課程1年

大学に入学してから、1ヶ月が経ちました。この1ヶ月は体感だと3ヶ月くらいに感じるくらい密度が高く、いろいろなことがありました。初めての寮生活、初めての履修登録、初めてのサークル活動など様々なことが新鮮でとても印象深い春を過ごすことができました。

私は大学に入学する時に不安だったことが1つありました。それは友人ができるかということ。私の高校からは弘前大学に進学する友人が1人も居らず、人間関係が全くの

0からのスタートでした。だから上手く友人を作れるかとても不安だったのですが、今では無事に友人を作ることができ安心しています。

大学生になって思ったのは、自衛の為の人間関係を築かなくても良いのが非常に楽だということ。自分の好きなように友人を作ることができ、関わりたい人とだけ関わられるというのは高校までとは違う世界を実感できます。まあもちろん苦手な人とも交流を持つこともあるのですが、ビジネスライクな付き合いでいいというのが気が楽です。

私は大学での4年間を振り返る時に「この4年間に比べれば高校の3年間なんてくだらないものだった」と言えるくらいの大学生活を送りたいと思います。

中身のある大学生活に



和田 みさと
文化創生課程3年

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。新学期が始まり数ヶ月経ちますが、大学生としての新しい生活には慣れたでしょうか。

私から新入生の皆さんに伝えたいことは三つあります。

一つ目は何事も早めに行動を起こすことです。特に、「締め切り」は怖いです。一つの締め切りに間に合わなければ、他のことに障害

が出る場合があります。「締め切り」に間に合わず将来の可能性を逃してしまうのは、とても悔いが残ります。

二つ目は、中身のある人間になってほしいということです。そのためには、興味があることにはどんどん挑戦して

ください。今、ほんの少しの興味だったとしても本気になるほど、自分の力や中身となっていくものが多いです。思いもよらないきっかけで、一生付き合える友人や趣味などに会うこともあります。

三つ目は、何でも前向きに、やる、ということです。面倒だからやらない、できなさそうだからやらない、そのような考え方は大学生活において非常にもったいないと思います。私たちには四年間の時間と自由が与えられていますし、自分の可能性や限界を決めてしまうのはいつも自分です。面白くなさそうだと思ってもとりあえず参加してみんです。やってみなければ分からないことは、たくさんあります。

間違いや失敗を恐れないで、とは言いません。当たって砕けろの精神で挑戦してってください。ただし、単位は確実に取るべきです。実りある大学生活になることを願います。

新入生の皆さんへ



赤石 勝利
文化創生課程3年

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。そろそろ大学生活に慣れてきた頃でしょうか。しかし、「大学生」に慣れた方はどれくらいいるのでしょうか。

大学生になって、多くの方が生活が変わったことでしょうか。私も一人暮らしを始め、学業だけに時間を割くだけでは生きていけない状況に投げ込まれました。三年目の今、ある程度は慣れてきたとはいえ、まだまだ試行錯誤

が終わりません。絶えずこうありたいを叶えようとしています。しかし、そんな生活が何よりも好きです。

私は「大学生」に慣れることは、決して日々の生活をルーティンワークにしてしまうことではないと思うのです。「大学生」って何でしょう。私にははっきりとは分かりません。けれど大学生だからこそできる試行錯誤、そしてそこから体験できる充実感は今までたくさん体験してきたと感じます。

大学生だからこそできること、勉学に限らず、たくさんあるとは思いませんか？そして四年間を充実感で彩ることができれば……。

私は「大学生」に慣れるとは、大学生活を充実させつつけることだと考えています。だから新入生の皆さん、大学生の内に「大学生」を思う存分追求しましょう。たくさんの経験をしましょう。楽しみましょう。そして、できるなら私も一緒にさせてください。「大学生」はけっして一人だけでできることではありませんから。

新入生のみなさんへ



及川 菜緒
文化創生課程3年

新入生のみなさん、ご入学おめでとうございます。そろそろ大学という場に慣れてきた頃ではないでしょうか。

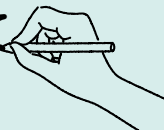
今までの学生生活と大学生活の大きな違いは、自分の自由になることが増えることだと思います。講義を選ぶこともサークル活動

することもアルバイトをすることも自由です。初めは色々なことに挑戦してみるといいと思います。その中で自分に向いていることや好きなことを見

つけることが、自分を豊かにしてくれると思います。少しでも興味のあることにはチャレンジしてみましょう。

また、私は大学生活において、色々な人と関わることが大切だと思っています。他人と会話し、色々な考え方や感じ方を聞いて刺激を受けたり、年上の人のアドバイスや経験を聞いて参考にしたりすることで、人として成長できると思います。新入生のみなさんにはまだ少し先の話かもしれませんが、人間としての中身を充実させることは、就職活動に必ず役に立つと思います。機会を逃してしまっては勿体無いです。

最後になりましたが、みなさんが充実した大学生活を送り、やり残すことなく卒業できるように願っています。



後悔のない4年間に



後藤 夏純
学校教育教員養成課程1年

長かった受験生活も終え、楽しみにしていた大学生活がスタートしました。最初のうちは家族のもとを離れたことで不安もありましたが、今は中高の友人に加えて新しく出来た友人とも親しくなり、不安も解消されました。毎日が目新しい出来事ばかりで、中身の濃い日々を過ごしています。

私は元々教師の道を志していましたが、小学校の頃の担任の先生の熱心かつ一人一人のことを考えた指導に大きな影響を受けたことをきっかけに、小学校教師になりたいと

思うようになりました。将来の夢に一步近づいた今、教えてもらってばかりいた高校生の勉強方法から、進んで自分の興味のあることを学ぼうとしていこうとする意志を持った大学生として4年間の大学生活を充実させたいと思います。

また、大学は学生生活の集大成でもあります。高校生の時に後悔したこと、やり残したことをできる最後の4年間になるので、悔いの残らないように挑戦できることは全て挑戦していきたいです。大学で出来た友人は、大人になってもお互いを刺激しあえる仲間になるでしょうし、出会えた先輩は自分を支えてくれる存在になると思います。たくさんのお会いを大切にして、大学生活に励んでいきたいです。

弘前大学の一員になって



佐藤 雪乃
学校教育教員養成課程1年

弘前大学に入学し早くも1ヶ月が過ぎました。この1ヶ月の間、たくさんのことがありました。履修登録やサークルの見学、また、桜祭りでのお花見など。いままでに経験したことがないことが多くとても刺激的な日々でした。徐々に生活にも慣れることができ、やっと大学生になったと実感するようになりました。

私は小学校の時、児童の人数が少なく複式授業をしていました。その際に自分たちで授業を進める機会がありまし

た。そこで教えることの楽しさや大変さを知り、私も教師になりたいと思うようになりました。私は、小学校の時から将来の目標が変わっておらず、教師になるためにはどうしたらよいか考えながら行動してきたつもりです。大学に入った今でもその目標を第一に考え、たくさんの方に挑戦していきたいと考えています。勉強はもちろんですが、そのほかにもボランティア活動に積極的に参加し子供との接し方など学びたいと思っています。まだ、大学に入り間もないので知らなかったことが多く、不安もありますが、充実した大学生活を送りたいと思います。この1ヶ月の間にも色々なことを経験しましたが、4年間でもっともっと、たくさんの方の経験を積みこの経験を教師になるためにいかしたいと考えています。

弘前大学の一員として



後谷 駿和
学校教育教員養成課程1年

入学式を迎え早くも1ヶ月が経ちました。この1ヶ月間は新しい環境に慣れるだけではなく、自分のこれからの学生生活について考える期間でもありました。

私は以前、教育とは別の分野の大学に通っていましたが、前の大学で学んでいたことと、自分のやりたいこととのギャップの

大きさに気づいたため退学し、弘前大学を受験しました。この経験から私は、子供たちが『将来本当にやりたいこ

と』を見つけられるように手助けしたいと思っています。私は子供たちの成長を見守りつつ、子供たちの将来を広げられるような教師になりたいです。

これからの4年間は教師になるための勉強だけではなく、自分が経験した事をどのように子供たちに伝えるか、そのためには何が必要かを考えて生活しなければならないと思っています。また、大学での貴重な時間を無駄にせず、将来幅広い視野を持った教師になるために見聞を広げたいと思います。

最後に弘前大学でこれから学ぶことができることに感謝し、実りある学生生活を送りたいです。

☆素敵な大学生活を☆



石岡 響介
学校教育教員養成課程2年

皆さん、桜は見に行きましたか？弘前城の桜はとても綺麗です。せっかく弘前にいるんだからまだ見たことない人はぜひ見に行ってみてください。

新入生の皆さんご入学おめでとうございます。

皆さん大学生活は満喫できていますでしょうか？高校までとは異なる大学の形式や一人暮らしなど新しい生活に不安もあると思いますが、すぐに慣れるので大丈夫です。弘前でキャンパスライフを楽しんで欲しいと思います。

大学生は時間がいっぱいとれる時期です。学問に励むもよし、趣味やサークルに没頭するもよし、遊びに花咲くもよしです。大学の4年間を後悔しないように有効に使いましょう。後悔しないためにも興味が有ることは迷わず挑戦してみましょう。やってみないとわからないことは多いです。何事もまずやってみよう！！

また、大学には個性的な人がたくさんいます。同級生や先輩や教授などと数多くの出会いが待っています。私も入学した頃は友達ができるか不安でした。でも、今では沢山の友達があります。素敵な出会いに感謝です。新入生の皆さんにも素敵な出会いをして充実した大学生活にしてください。

「とりあえず、やってみよう！」を大切に



海藤 侑里子
学校教育教員養成課程4年

皆さん、ご入学おめでとうございます。私がやってよかったと思うのは、とにかく色々な授業に足を運ぶことです。聴講だけするのもよいと思います。興味のある授業以外にも、全く知らない分野の授業等、未知なる世界に学びに行くのもおす

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。

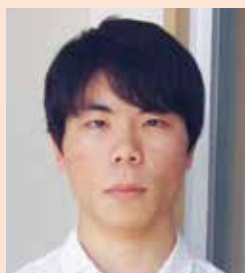
皆さんに何を伝えたらよいのだろうと思いあぐねた結果、僭越ながら、この場をお借りして、私がやってよかったこと、後悔していることを皆さんにお伝えしようと思います。

私がやってよかったと思うの

すめです。「つまらない」と思っても、なぜつまらなく感じるのか、自分は何を知らないのか、自分の知っていることは本当なのか、とちょっとした疑問を持ちながら授業を受けると、意外な発見をしたり、別の授業で学んだことが生きてきたりと、学問の広さ・深さに心が躍ると思います。後悔していることは、アクティブになれなかったことです。今では、「海外に留学していたらどうなっていただろう」等、やりたいと思いつつもやらなかったことを思い出せば後悔しています。

何が入っているかわからない箱の中に手を入れるのは怖いものです。ですが、入れてみなければ知らずに終わってしまいます。学んだものは、全て自分の財産となります。皆さんが一つでも多くを学び、素敵な大学生生活を送ることを願っています。

手段の目的化



藤田 雄大
学校教育教員養成課程3年

皆さん、ご入学おめでとうございます。皆さんは、どのような想いで弘前大学に入学してきたのでしょうか。夢を叶えるため、見識を広めるためなどさまざまな想いがあることでしょう。

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。皆さんは、どのような想いで弘前大学に入学してきたのでしょうか。夢を叶えるため、見識を広めるためなどさまざまな想いがあることでしょう。

さて、私が新入生の皆さんにお伝えしたいこと、お伝えできるとはそれほど多くはありません

験勉強に追われる毎日を過ごしてきたことでしょうか。辛くてくじけそうになったこともあるかもしれません。それは何のためにやってきたのかを一度振り返ってみたいと思います。決して大学に合格するためではないと思います。むしろ、大学を卒業したあとに自分のやってみたい職業に必要な技術や能力を身につけるためではないでしょうか。大学での4年間もしくは6年間は、大学卒業後、数十年に渡って生活していくための武器になるはずですよ。その武器をどれだけ強くできるかは、皆さん次第だと思います。大学への入学を目的にせず日々、バイトやサークル活動、学問に励み充実した学生生活を送っていただきたいと思っています。



青森県の期待を背負って



川村 悠祐
医学部医学科1年

弘前の地で勉学に励んでいきたいと思います。弘前大学で生活してみて感じることは先輩との繋がりの強さがあるこ

弘前大学の一員となり、今では自由な大学生活への期待と勉強への不安が入り交じっています。弘前大学は青森県で唯一の国立大学なので青森県を背負い牽引していく大学だと感じています。

特に私は医学部医学科なので医師不足、短命県といわれる青森県に貢献できるように6年間、この

とです。私は八戸高校出身で入学前には八高会というものがあり、高校の先輩方から大学でのアドバイスをもらいました。初対面でも話をしてくれたり、履修相談をしてくれたりする先輩もいてとても感謝しています。また、弘前は四季を存分に楽しむことのできる場所だと思っています。桜、紅葉、雪など移りゆく季節に目を向けながらも生活していきたいと思います。

最後に学生の本分である勉強について述べたいと思います。大学は高校までとは違って自主的な勉強が求められると思います。キャンパスには図書館やパソコン室、自習室などが充実しています。これらの施設を積極的に利用していきたいと思います。これから6年間よろしくお願ひします。

これからの6年間



東 朗周
医学部医学科1年

足りないことを意味するのだと思います。その問題の解決のために受験において面接があり、それを乗り越えてきたので、きっと教授からは最低限のコミュニケーション能力

弘前にも春が訪れ、美しい街で過ごせることを幸せに感じながら一ヶ月が過ぎていきました。

さて、私は将来医師になるのですが、最近よく耳にするのは、医師が診察の時にパソコンばかり見ているということです。これは、医師が患者さんを思いやる気持ちやコミュニケーション能力が

があると認めてもらっているのでしょう。しかし、まだまだ、足りないと自覚しているので、これから様々なことを経験して人として成長していきたいです。

本当は「これから6年間勉強を頑張るぞ」と書きたかったのですが、やはり大学生になり、部活の先輩や同期の友達といろいろなことをしてみたいです。私は大阪出身で“雪で遊ぶ”なんてことはほとんどしてこなかったのも、ウィンタースポーツなども楽しみたいと思います。

とは言っても学生でありますし、更にいうと医学生であるので勉強もしっかりとして、将来は社会に還元できるように人間になります。これからの6年間はもう経験できないことばかりの6年になると思うので毎日を楽しんでいきます。

自分を変える



栗石 渚南美
医学部医学科1年

日々を過ごす中で、大学生活は自分を磨く機会に満ち溢れていると強く感じました。講義に関する情報を入手したり、自身の健康管理を行ったり、予定を自分で組んだりと

晴れてここ弘前大学に入学し、様々な人たちに会い、慌ただしい毎日を送っていると気がつけば入学式から一ヶ月ほど経ちました。こうして、弘前大学の新たな一員となるにあたって、私には決意があります。

それは、どんなことに対してとも挑戦する意識を持つことです。

自己管理することが増えたため多くのことを同時に考える力が必要だと思います。また、部活動では何も知らない私に先輩方が一から丁寧に教えてくださるため、すぐに毎回の活動が楽しみになったのですが、受け身で参加するだけでなく、自ら成し遂げるイメージを持つことで、大きく自分を成長させられるのではと考えています。

そのためにも、もっと自己表現を上達させていきたいです。どちらかと言えば、今までの私は何かを伝えるということに消極的でした。しかし、新たな環境になり周りの人たちが自分の考えをしっかり持って発信している姿を見て、自分も多くのことを発信したいと思うようになりました。

この決意を忘れずに、これからここ弘前大学で学んでいきたいです。

新入生の皆さんへ



小林 勇貴
医学部医学科2年

積極的に行動することの大切さです。大学は多くのことに挑戦できる良いチャンスです。特に一年生のうちは時間もあるので、皆さんには興味があることに積極的に挑戦して

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。新生活には慣れたでしょうか。次々とやって来る新鮮で刺激的な出来事に圧倒され、とても長く、浮き足立った2ヶ月を過ごしたのだと思います。

さて、ここでは私が弘前大学で一年過ごして痛感した事を伝えたいと思います。それは計画的に、

もらいと思います。ただ、ここで注意してほしいのは、漠然とやりたい事を考えているだけでは何も出来ないということです。いつ、どのように行動するかを具体的に決めておくことが重要です。大学一年生という時間は、意欲と計画性のある人には多くのものを与えてくれます。しかし、それらが無い人は後になって後悔することになります。少なくとも私は酷く後悔しました。

このスタートダッシュの差が今後の大学生活にも大きな影響を与えるということは明白ですし、特に医学科の方は2年生からは勉強に追われ、自分の時間はあまりありません。皆さんの多くが既に何かしらに対して十分な熱意を秘めているとは思いますが、どうかその熱意をスケジュール帳に書き表してください。この一年が実りあるものなることを願っています。

充実した1年にするために



成田 亜沙美
医学部医学科2年

サークルや部活に入ったり、アルバイトを始めたり、友達と旅行したり、過ごし方はたくさんあります。そのそれぞ

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。大学生活にはもう慣れましたか？1年生は他学年に比べて自由な時間がたくさんあり、あっという間に過ぎてしまいます。そこで私が新入生に伝えたいことは、その自由な時間を楽しく有意義に過ごし、自分の成長に繋げてほしいということです。

れで大事にしたいのは、人との出会いです。出身地も年齢も価値観も、みんな様々で、たくさんの刺激を受け、学ぶこともたくさんあります。でも、私は1年生のときアルバイトをほとんどしなかったので、大学外の人との繋がりがあまりなく、社会経験もあまりできず、2年生になった今、やればよかったととても後悔しています。

皆さんはこれからの1年で何でもできます。頑張るときは全力で頑張る、楽しむときは全力で楽しんで、たくさんの方に挑戦し、時間を大切に過ごしてほしいです。皆さんがその中で学んだことや経験したこと、新しくできた人との繋がりは、これからの人生に必ず役立ち、支えになると思います。充実した学生生活をお過ごしください！

出会いを大切に



今井 啓聖
医学部医学科2年

人はこれから、医学生として、そして医師として、様々な人と出会っていくことと思います。皆さんがこれからこの

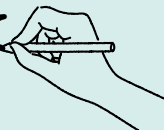
新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。そろそろ弘前大学での生活にも慣れてきた頃でしょうか？医師になるという志を持って苦しい受験期を乗り越え、やっとその夢へのスタートラインに立つことができたという喜びも非常に大きいことと思います。

さて、医学科に入学された皆さん

弘前大学で出会う仲間や先輩、後輩、先生方その他多くの方々は、将来皆さんが医師として活動していくうえで、生涯関わっていくことになる人かもしれません。

そこで、皆さんにはこの医学部で部活動や、各県人会など医学部ならではの様々なイベントに積極的に参加し、様々な人に出会っていただきたいです。多くの人と出会い関わっていくことは医師としてコミュニケーション能力を養うことにも繋がりますし、より多くの出会いは皆さんの大学生活を豊かにしてくれるだけでなく、様々な場面で皆さんの助けになることと思います。

皆さんがこの6年間で、たくさんの良き出会いに恵まれ、有意義な大学生活を送れることを心よりお祈りしております。



弘前大学に入学して



森 友香
理学療法学専攻1年

弘前大学に入学して一ヶ月経ちました。入学前は勉強について行けるか、友達ができるかなど、多くの不安を抱えていましたが段々と同じ専攻の人とも打ち解け、大学の講義や一人暮らしの生活にも慣れてきました。

高校一年生の時からずっと第一志望校であった弘前大学でこれからたくさん勉強して立派な理学療法士になれるように頑張っていきたいと思っています。大学の勉強は専門的なもの

が多く講義がとても楽しいです。今までは親に頼りっぱなしの生活を送ってきたのでしっかり自立し、社会に出て大丈夫にするために自分のことは自分で管理し行動していきたいです。また、私は部活にも所属しているので勉強と部活を両立させていきたいです。大学では自由な時間がたくさんあるので海外留学や部活動など今しかできないことやアルバイトをしたり旅行に行ったり新しい経験をしたいです。

大学の四年間の貴重な時間でいろいろな経験を通して人としても成長できるように、地元の人々の生活の支えになれるような理学療法士になるために充実した毎日を過ごしていきたいです。

新しいことだらけの環境に飛び込んでみて



的場 大地
作業療法学専攻1年

緊張しながら迎えた入学式から早1ヶ月が経ち、ようやく大学生活にも慣れてきました。炊事、洗濯、掃除など今まで親に任せていたことをすべて自分でやるという生活に最初はなかなかスムーズにできないこともありましたが、最近、料理では作れるメニューも増え、電気代を節約するように心がけるようにするなどそれなりに生活力がついたのでは自分では思います。

入学前は大学でも勉強ばかりで苦しいのだと考えていま

した。実際、レポート課題など初めてやることに苦戦することもあります。また、学年が上がるにつれて実習なども増えて、初めて経験することだらけでうまくいかないこともあると思います。しかし、同じ目標へ進む同期の仲間たちと協力してお互いを高めあっていけば乗り越えられると思います。作業療法士は人とのコミュニケーションがとても大切な仕事でもあるので、大学生活（普段の生活、部活、アルバイト等）を通して向上させることができれば良いなと思います。

おそらくこの大学生活はあっという間に過ぎていくのだと思います。より充実した4年間にするために多くのことに挑戦し、一人前の作業療法士になるために日々精進していきます。

弘前大学の学生となって



木村 翔大
放射線技術科学専攻1年

入学し約一ヶ月経ちました。ということは、一人暮らしも約一ヶ月経ったということです。初めは慣れないことばかりで、本当に大変でした。こうして一人暮らしをすることで今までの親の有難みを感じるがあります。この大学生活の中での一人暮らしは、さらに大人になるため、自立するための近道であると私は生活していて感じました。

私がこの弘前大学に入った根拠は放射線について学びたいと思ったからです。将来は医療の現場で働きたいと考え

ていました。大学での講義は高校までの授業とは全然違い、今まではただ受けているという事が多かったですが、大学での講義は将来仕事に就くために何を学びたいかを取捨選択し、授業ではとても補えない部分を予習、復習で補っていかないとはいけません。講義は大変と感じる部分もあります。ただ現在受けている講義は絶対にこれから役に立つと思います。

私は高校の先輩の誘いでサークルに入りましたが、そこでのサークルはとても楽しく、新しい同級生や先輩に出会えて本当に良かったと感じています。

サークルを楽しみながらも勉強は怠らず、放射線の国家試験そして就職に向けてこれからの四年間を過ごしていきたいです。

人とのつながり



井澤 瑠那
看護学専攻2年

を専門として学んでいる学生が大勢います。他学部の人と関わるきっかけは数多くあると思います。例えば、サーク

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。大学生活にはもう慣れましたか？この春から新しい環境になり、新鮮な日々が続いていることと思います。

さて、私が皆さんに大学生活の中で一番実践してもらいたいことは、多くの人と交流することです。弘前大学には多種多様な分野

ル、部活、授業…。そのひとつひとつの出逢いを大切に
して、人とのつながりを築いてほしいです。また、日本人
学生だけでなく、海外から来ている留学生ともぜひ交流を
深めてほしいと思います！私は留学生と話しているとき
に、ふとした瞬間に「世界はここだけじゃないんだな。」
と感ずます。「英語話せないな～」とか「恥ずかしいな～」
と思っている人がいるかもしれませんが、彼らはとてもフ
レンドリーなので心配なくて大丈夫です！

自分から積極的に動かないと世界は広がりません。自分
の枠にとらわれずにたくさんの人たちと接することで新し
い自分を発見できたり、新しい夢や目標を持ったりでき
ると思います。人とのつながりを大切に、この春からの
大学生活を楽しんでください。

充実した大学生活を



磯崎 萌
理学療法学専攻3年

える時間がたくさんあることだと思います。部活・サークル活動に精を出すもよし、アルバイトでお金を稼ぎ旅行に

新入生のみなさん、ご入学おめでとうございます。大学生活はいかがお過ごしでしょうか。自分で講義を選択できたり、空きコマがあったり、髪や服装を自由にできたりと、高校までとは違った新しい環境に戸惑っている方も楽しんでいる方もいるでしょう。

大学の良いところは、自由に使

行くもよし、勉強を頑張っ
て首席を狙うもよし。ぜひ、
この機会に様々なことに挑
戦してみてください。知らな
い自分を見つれたり、外の世
界を知ったりして、成長に繋
げることができる良い機会
です。そしてこのとき、やり
たくないことにはNOと言っ
ていいし、嫌になったら逃
げてもいい、ということ
は覚えていてください。新
しいサークルも友だちもバ
イト先も意外とすんなり見
つかります。

私は、現在週5日のアルバイトと週1日のサークル、毎日の授業の両立に励んでおり、忙しく大変だと感じることもありますが、自分のしたいことを全部する、これが充実した生活に繋がると思っています。

みなさんもぜひ自分の興味のあることに挑戦し、充実した大学生活をお過ごしください。

充実した学生生活を



陳 彦宇
検査技術科学専攻2年

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。4月から大学生活が始まって新しい環境に適應しながら勉強していると思います。このわずかな間に新たな出会いがありましたでしょうか？大学は高校と異なって履修できる科目は多分野にわたり、部活やサークルもたくさんあり、自分の時間割を作って調整したりできます。

特に1年生の時にはフリーな時間が多く、授業以外にもたくさんな経験を積んでいく最も良い時期だと思います。2年生に上がっていくと保健学科では専門分野の授業や国家試験対策など数多く勉強するので忙しくなると思いますが、たまには友達と出かけたりして適度な遊びも大事だと思います。4年間の大学生活ではたくさんの人に関わって、中には自分にとって大切な人、尊敬する人も現れると思います。繋がりをもって大切に過ごしてほしいです。

保健学科の方々は授業や実習も多いので大変だと思いますが、どういった医療従事者になりたいかを改めて考え、将来像もきちんと想定して勉強と休憩をバランスよく取って大学生活を充実したものにしたいと願っています。

これから



佐藤 快
電子情報工学科1年

弘前大学に入学してから約1カ月、入学当初は様々な不安がありました。ガイダンスなどを通じて大学生活に慣れていきました。

何を勉強するのか、教師からほとんどのことが指示されていた高校までとは違って、大学では全て自分で考えなければいけません。これから私は、自分の将来や勉強

したいことを考えて挑戦していきたいと思います。

さらに、社会に出ても恥ずかしくないように日々を過ごしていくとともに、先輩や教授の方々からいろんなことを吸収して自分の力にしていきたいと思っています。

大学4年間はあっという間に過ぎていくと思います。だからこそ時間を無駄にしないようにすることを心に留めておき、充実した大学生活を送りたいと思います。

大学生活を送るにあたり今までたくさんの方々を支えられてきたことを実感しました。その方々に感謝をしつつ、またこれから私と関わってくださる方々に感謝の気持ちを忘れずに大学生活を過ごしていきたいと思っています。

弘前大学の新たな一員として



川越 聖哉
地球環境防災学科1年

私は弘前大学の新たな一員になりました。私は弘大の一員として、次の3つのことを心がけていきたいと思っています。

ひとつめは「自律」です。私は高校を卒業してまもなくであり、「自由」が突然にやってきました。しかし、この「自由」に対して、責任が求められることを自覚し、行動する必要があります。親切に私たちを律してくれた先生方は、これからはもういません。そのためには自らを律し、常にこれを心がけることが重要だと思います。

ふたつめは「勉学と研究に励むこと」です。大学とは、教育の場であり、同時に研究に取り組むことを義務付け

られた場でもあります。私たちには今後、存分に学び研究する時間と、そのための場があります。ぜひとも弘前大学では自らの知識と教養を一層に深め、より深遠で専門的な学問に触れていきたいです。

最後は「自分の興味を探す」ということです。私たちは多くの自由な時間を手にしました。私たちはこれを自らの興味を探すことに充てることができます。言いかえるならば「自分探しの旅」です。勉強にサークル、アルバイトなど私たちには自分の興味や居場所を探索できる多様な機会があります。有意義にこれからを過ごしていきたいです。

ところで、高校の数学の先生が「さっさと学問の海に飛び込んでこい」と送り出してくれました。要するに、目の前には完全に未知なる真理の大海原が広がっています。弘前大学でこれからたくさんのことを学べると思うと楽しみであり、たくさんの人への感謝が絶えません。ありがとうございます、頑張ります。

これまでとこれから



藤田 竜成
物質創成化学科1年

時の流れというもの早いもので、入学して一ヶ月が経ちました。大学生活にも慣れ、学科を超えて個性豊かな友人もたくさんできました。正直、入学当時の私は友人ができるかと心配していましたが、会う人会う人とても良い人ばかりで、恵まれた環境にあるなあと思うばかりです。本当に感謝

したいと思っています。

私には夢があり、その夢を叶えるため物質創成化学科を志望しました。大学での講義とはどんなものだろう、色々な講義を受けてみたいと希望に満ち溢れながら入学しまし

たが、留年率第三位、半分以上が単位を落としたという必修、遂には心配しなくても単位は落とすと教授が自らおっしゃっていたので、現在は不安に叩きのめされています。留年せずに卒業できるのかということが最近の悩みです。しかし、こんなことでへこたれていたら夢は到底叶いやしないと思うので、努力を積み重ね、精進していきたいと思っています。

大学は本当に自由な場所だと思います。夢に向かおうとしたらどこまでも向かうことができます。誘惑に飲まれ、墮落してしまったらダメ人間にもなれます。あまりに自由なため目標がわからなくなる時も来るかもしれません。そんな時はこの学科に入った理由、自分の起源となったものを思い出すようにしたいです。信念を持ち、突き進む4年間にしたいです。

主体性を身につけよう



佐藤 香介
数物科学科3年

新入生の皆さん、入学おめでとうございます。そろそろ、大学生活にも慣れて自分の生活リズムを確立させてきたところでしょうか。早起きが苦手な午前授業を休みがちという人もいます。出席を重要視している講義は多いので、そのような人たちは早めに克服することをおすすめします。(笑)

私が大学生活を送る上で一番大切だと考えるのは、主体性を身につけることです。大学もしくは大学院を卒業後、

皆さんは社会に進出することになります。これまでとは違い、与えられた課題をこなすことよりも自分で見つけて解決することが多くなります。つまり、受動から能動への切り替えが求められます。そこで躓かないためには主体性を身につける必要があります。大学はそれに適した環境だと思います。大学では高校までと比べると、能動的に活動する機会が格段に増えます。サークルやアルバイトはイメージしやすいと思いますし、第一に自分が受ける講義を自分で選択することになります。それら以外の課外活動も数多く存在するので、自分から行動を起こさないと後々後悔することになるかもしれません。だから、情報は常に自分から仕入れるようにしておきましょう。このように自分からの行動を心掛けておくと自然と主体性を身につけられ、社会に出た際に有利になると思います。

自分を知る



Wang Wei
機械科学科3年

新入生のみなさん、大学での新しい生活はいかがですか。楽しいですか、それとも少し躓いていますか。大学に入って2か月くらいが経ち、みなさんの心細い気持ちも少し落ち着いた頃だと思います。今回は大学生活をいかに有意義に過ごすかについてお話ししたいと思います。

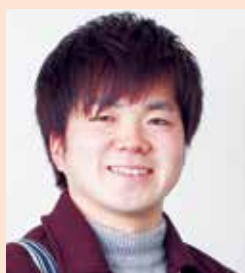
別に、そんな大層な話をするつもりはありません。ただ、新入生のみなさんに後になって大学生活を振り返るときに、楽しかったという気持ちになれるように話させていただきます。大学は簡単に言えば学校です。でも、高校とかと違って我々学生たちに自由な時間が多くで

きました。もちろん、その時間を自由に遊ぶ時間にするのも、好きなものに夜明けまで集中できる時間にするのも、私たち次第です。それには様々な使い道があります。わたしは大学4年間を自分自身の人間性を知るあるいは育てる時間だと思っています。だから、遊ぶのも、一生懸命勉強するのも、ボーっとして一日過ごすのもいいと考えています。しかし、それらをしているときに自分がなぜそれをしているのか(行動の目的)を思い出してほしいです。

自分は一体どんな性格の人間なのか、どんなものに興味を持っているのかを在学中に知った方が、これからの人生をより順調に生きられると思います。そのために、色々なものに挑戦してみましょ。今まで苦手だったこととか、やってみただけダメだったこととか。挫折があったから面白いことが経験できたこともあります。

だから、失敗しても構わないで、やってみたいことをやってみてください。

充実した大学生活を



高橋 央弥
自然エネルギー学科3年

新入生のみなさん、大学生活が始まって少しずつ慣れてきた頃だと思います。僕が思う大学生活は社会人になる準備期間だと思います。自分の専門科目を極めたり、他学部と一緒に教養科目を受けて、自分の将来に向き合うことができる最後の時間だと思います。

自分の場合、やりたいことが見つからず、自分の将来のことに対して深く考えたことがありませんでした。ゆっくりでもいいから自分の将来について考えていた方が迷いがなくな

り、充実した生活を送ることができると思います。

さて、自分が所属している学科の紹介をしたいと思います。私たち自然エネルギー学科は総合的な視点を持つことを重視しています。例えば、熱力学や微積分といった教養はもちろん、エネルギーに特化した講義を受けることができます。発電方法だけでなく、輸送、貯蔵、効率などについて多様な面から学ぶことができます。

最後に、大学生活をさらに楽しむためのアドバイスをしたいと思います。まずは仲の良い友達を作ることです。学科の友達、部活、サークルの友達たくさんのお会いがあります。大学の友達と一緒にたくさんの経験をしてください。大学でできた友達は一生の付き合いになります。

大学生活、充実した時間を過ごしてください。



弘前大学に入学して



後藤 照紗
生物学科1年

弘前大学に入学して早一ヶ月が過ぎました。初めての親元を離れたの一人暮らしや、地元とは異なる環境などいろいろ慣れないことが多いですが、毎日が大変ながらも楽しく過ごしています。私は沖縄県出身なので、第一に弘前の環境に適応できずに、最初は灯油ストーブの使い方や雪が降ったときの服装など戸惑うこともたくさんありました。しかし、一ヶ月経って、その生活にも慣れ弘前の季節の変化を楽しんでいます。大学生活は高校生の時とは全く異なり、様々

な方面で主体性が問われ、例えば自分で受ける講義を決めたり、サークルに入ったりします。しかし自由な一方で、自主的に動かないと何も始まらない現実があり、自分は大学生になったのだなという実感がじわじわと湧いてきます。

私は昆虫や生態系の勉強がしくて弘前大学の農学生命科学部生物学科を選びました。農学生命科学部で受けられる講義は難しいものもありますが、私にとって刺激的で興味のあることばかりでワクワクが止まりません。一年生のうちは教養科目なのでまだ専門的な勉強はできませんが、日々の講義を怠らずいろいろなことを吸収して、自分の将来のためにも有意義な大学生活を送りたいと思っています。

大学生になって



黒田 小百合
分子生命科学科1年

私は、弘前大学に入学してから、大学生になったという実感があまりありません。しかし、高校の時と違う、と感じる場面は多くあります。例えば、私服で登校すること、自分で履修科目を決めなければいけないことなど様々ありますが、私にとって一番大きな変化は、親元を離れて暮らすことです。私は青森県出身ですが、太平洋側のおいらせ町に実家があり、通学が困難であると判断したので、大学の近くに住むことにしました。下宿で生活することにしたので朝

晩の食事は問題ない状況ですが、まだ実家に帰りたい時が度々あります。大学生活については、まだ大きなテストやレポート課題が頻繁にあるわけではないので、思っていたよりも忙しくないです。こんなに時間があるのも一年生のうちだけだと思うので、部活と勉強の両立の仕方を学んだり、運転免許を取ったりと一年間を充実させたいと思っています。

4月から5月にかけて、これからこの大学でやっていけるのか、本当にここで良かったのかと考えることが多く、悩むことが多かったです。もともと弘前大学は第一志望の大学ではなかったので、そのような心配はこれからも付きまとうと思います。でも、これも何かの縁だと思って精一杯頑張りたいです。

『大学に入学して』現在



織戸 浩英
地域環境工学科1年

弘前大学に入学して、約1ヶ月が経ちました。大学での生活は今まで経験してこなかったことがたくさんあり、毎日が新鮮でとても楽しいです。

私がこの弘前大学の地域環境工学科を知ったのは高校3年の冬でした。正直、担任の先生に勧められる前までは、この地域環境工学科について全くといっていいほど知識がありませんでした。学科の名前から推測するに環境保全について学ぶもの

かと思っていましたが、実際には水理学や農業土木についてなど幅広く学べると知って、面白そうだと思い、この学部決めました。

大学の講義は高校の授業と違い、自ら勉強しなくては単位が取れず、卒業できないので、4年間で単位を1つも落とさないことを目標に頑張りたいと思います。また、高校の時はバイトをしていなかったのですが、大学では色々なバイトをしたいと考えています。学生のうちにバイトを経験することは、社会に出てから役に立つと思うので、積極的に働き、経験を積みたいです。

これからの大学生活を考えると、とても楽しみです。勉強もしっかりやって充実した生活を送りたいと思います。よろしくお願いします。

時間の大切さ



国久 拓樹
国際園芸農学科3年

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。新生活、学校には慣れてきたでしょうか。大学での授業や、サークル活動へ参加してみたりとワクワクしているところかと思います。そんな中ですが、私から大学生になっての時間の大切さについて話そうと思います。

私は今年度で大学3年生となり研究室にも配属され、これから卒業論文に向かい、就活も始まってくるとい忙しくなってくる時期を迎えようとしています。そこで就活に向けて色々考えるうちにまず私が過ごしてきた大学2年間を思い出すことにしました。

まず、1年生の頃は友達が欲しいと色々なサークル活動に積極的に行きました。アルバイトなどは1年生の時は一切せずただ学校に行き遊ぶだけの生活を送りました。2年生になるとアルバイトを始めサークル活動への参加頻度が減り、週の半分をアルバイトに時間を費やしました。そうしているうちにあっという間に時間が過ぎて3年生になってしまい、この2年間何もしてこなかった私は今、焦りを感じています。

新入生の皆さんには私と同じ思いをして欲しくないのは是非、何かスキルとして役立つ、興味のあることを大学1年生のうちから勉強し時間を大切にしてください。また、アルバイトは社会勉強として色々な世代の人と交流する機会がもてるため、是非1度は経験してみてください。では、良いキャンパスライフを！

やりたいことを全力で



清川 僚
農学生命科学専攻2年

新入生の皆さん、大学生活が始まってから数か月ですが、いかがお過ごしでしょうか。私の記憶ですと、自分の学科に関係ないような授業をたくさん受けないといけなく、退屈だった気がします。大丈夫です、数年後には授業が少なくなります(単位を順調に取れていればですが、...)。

今は授業をこなしつつ、たくさんの仲間を見つけることをお勧めします。例えば、同じ学科の人であったり、サークルやバイトで知り合った人であったりです。意気投合し

た仲間は今後一生の宝になります。また、大学には高校以上に他種多様な人が集まります。たくさんの人と関わることで、世界観が広がります。イベントやサークル等、ちょっと迷ったら飛び込んでみるのもありだと思います。意外な出会いがあるかもしれません。

大学生活を長い目で見たときの、個人的なアドバイスがあります。それは、「やりたいと思ったことを全力でやること。」です。部活、研究、恋、サークル、趣味、アルバイト、なんでもいいです。大学生活は時間があります。若いうちで、やりたいことに注力できる貴重な時間です。全力でやったことは、失敗、成功に関わらず必ずなんらかの形で糧になるはずで。そして、自分で選択したことに責任を持ちましょう。

ではでは、楽しい大学生活を願っております。

実りある学生生活を



西山 広亮
農学生命科学専攻1年

新入生の皆さんご入学おめでとうございます。期待と不安を持って入学されたと思いますがそろそろ大学生としての新生活、慣れてきた頃でしょうか。私は両親や親戚に大学の4年間はあっという間に過ぎるよと言われていましたが、本当に一瞬で過ぎ去ってしまったように感じています。

大学は高校までと違い自由に使える時間があります。学生ですので勉学に励むことはとても大切なことです。私は

大学で勉強・研究に勤しむ中で将来やりたいことを見つけることができ、さらに学びを深めるために大学院生として大学に通っています。また、勉強するだけでなく部活やサークル、アルバイト、旅行などを通して様々な経験をすることも大事なかなと思います。社会人として働くようになってからではなかなか時間が取れないはずで。貴重な経験することは今後の人生の財産になることで。さらに新しいことに挑戦することもよいと思います。

余談ですが、ある方が目標達成のためには目標を数値化する、達成可能な目標を立てる、自分の価値観にあった目標を立てるとよいと仰ってました。ぜひ、向上心を持って学生生活を楽しんでください！

Laboratory introduction

人文社会科学部
芸術史研究室
教授 足達 薫

常駐者ひとりの研究室

こちらの『学園だより』のバックナンバーで「研究室紹介」を見ると、在籍者が何人もいて和気藹々とした雰囲気の研究室が多くて、環境の違いに愕然とします。私の研究室に常駐しているのは私だけです。劇団ひとりならぬ「研究室ひとり」です。研究をしていて自分の発見や気づきを誰かに語りたくないと、授業でまくしたてたり、本や論文に書いて欲求不満を解消したりするしかありません。そんな研究室で私が何をしているか、ここぞとばかりに語りたと思います。

マニエリスム研究——奇想の源泉を求めて

私の研究テーマはイタリア美術におけるマニエリスムです。マニエリスムとは、16世紀前半の美術において現れた特異な傾向を指します。16世紀前半、若い世代の美術家たちが、奇抜で人を驚かせる独特の美術を創造しはじめました（図1）。私の研究課題は、マニエリスムの源泉を突き止めることです。夏や冬にイタリアなどへ出かけて作品や昔の文献資料の調査を続けています。



図1

グロテスク——「絵画の夢」と呼ばれた怪物たち

最近、マニエリスムの源泉として、ルネサンスの人々からグロテスク（「地下洞窟のようなもの」と呼ばれた装飾的表現に注目しています（図2）。グロテスクは、古代ローマ時代のある時期に現れたとても愉快で奇怪な意匠で、人間や動物や魚など様々な物が組み合わせられた怪物、神殿と植物が合体・融合したものなどで構成されます。マニエリスムが現れる直前の15世紀末、古代



図2

ローマ時代の実例が再発見され、美術家たちを驚かせました。グロテスクは美術家たちから「絵画の夢」と呼ばれ、美術の可能性を広げる魅力的な課題とみなされました。グロテスクの構造はマニエリスムの奇想ととてもよく似ており、年代的にも影響関係が考えられます。

作品調査での悲（喜）劇

ローマのいくつかの建物の正面壁に、1520年代にモノクロームで描かれたマニエリスムの作品があります。ところがほとんど写真資料がありません。なぜなら、向かいの建物との間にある道が狭すぎて、全体像の撮影が



図3

ほぼ不可能なのです。しかたがないので、広角レンズをつけたカメラを持って路上に寝そべり、ほぼ真下からという絶妙に悲しい角度で撮影しました(図3)。どう見ても昼間から酔っ払った1人のおじさんがフラフラっと近づいてきて、いきなり壁に向かって立ち小便をします。さすがにこの嫌がらせ(?)には腹を立てて「なんでそんなことするの」と文句を言いましたが通じませんでした。しかし、考えてみれば路上ですから汚いわけで、おしっこよりさらに汚い何かがあったかもしれないと思うと悲しくなります。

そう言えば以前、サン・ピエトロ大聖堂(ローマ)の正面扉裏面の最下層部を撮影しようとして腹ばいになっていたら誰かに踏まれたこともありました。迷惑をかけたのはこちらだったわけで、その節はどうもすみませんでした。

本当はみんなに支えられている

最初、「研究室ひとり」などと書きましたが、本当はとても多くの人に支えられています。若い学生のみなさんと同僚の先生方からもらう刺激は研究の大切な糧です。そして、大学のスタッフのみなさんによる献身的な支えがなければ、研究も教育も生活もできません。私は人文社会科学部におり、さらに弘前大学出版会や資料館にも属していますが、忙しい時期にイタリアで調査できるのも、みなさんの優しく愛あるフォローのおかげです。どうぞこれからもよろしく願いいたします。

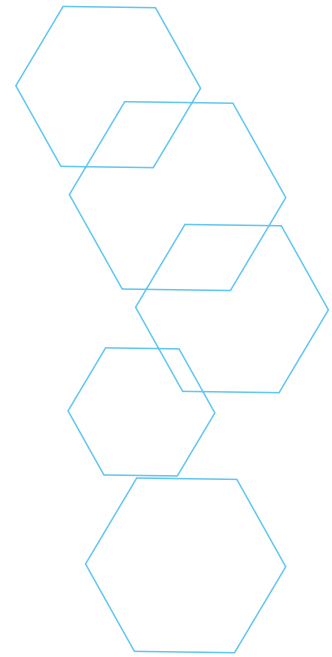


図1 パルミジャーノ(フランチェスコ・マッツォーラ)《凸面鏡の自画像》1523-24年、ウィーン、美術史美術館 ©KHM-Museums (<https://www.khm.at/en/objectdb/detail/1407/?offset=5&lv=list>)

この絵は実際に凸面型の板に描かれています。マニエリスムの中でも大好きな絵のひとつ。

図2 アレッサンドロ・アラルディ《グロテスクの間》1514年完成、パルマ、カメラ・ディ・サン・パオロ(パブリック・ドメイン: Public Domain) 撮影筆者 昔の女子修道院長の私室にこんな怪物たちがうごめいていました。

図3 ポリドーロ・ダ・カラヴァッジョとマトゥリーノ・ダ・フィレンツェ「古代の英雄や歴史場面」1520年代、ローマ、パラッツォ・ミレージ(パブリック・ドメイン: Public Domain) 撮影筆者 おじさんが接近してきたのはこのあとです。

海外だより



グローバルな経験を積んだ学生たちを紹介

| 寮生 |



オークランド工科大学での留学生活

人文学部 経済経営課程 4年 福士 純子

私は現在、ニュージーランドにあるオークランド工科大学 (AUT) に留学しています。この留学体験記では私の日々の学校生活の報告はもちろん、今留学に踏み出そうとしている人や海外に興味がある人の後押しになるような情報をお届けしたいと思います。

まず住居についてですが、私はAUTの運営する学生寮 (WSA) に住んでいます。そこには大体500人程度の学生が住んでいるのですが、驚くべきことにそのうちの200人ほどは私と同じように世界各国の大学から交換留学としてきた学生なのです! しかも、アジア圏の割合が2割ほどとかなり低いです。当然、寮内での言語は英語、一緒にフロアに住むフラットメイトも多国籍です。私は諸事情があってルームチェンジをしたのですが、1度目のフラットメイトはカナダ人とイギリス人、中国人、デン

マーク人でした。この環境は私たちの語学学習にとってまたとない絶好のチャンスです。(ワーキングホリデーをしている友達に聞いた話ですが、オークランドでアパートを借りようとしても、そのフラットメイトはかなりの確率で中国人か韓国人だそうです。) この寮に住んでしみじみと感じることは、英語の国際言語としての通用性の高さや自分の英語の出来なさに対する苛立ち、そしてネイティブスピーカーと行動をともにすることの大切さです。弘前大学の英語圏留学といえば、主なカリキュラムは語学習得です。しかし、他の学生はそれが目的ではありません。彼らは自分の専攻する学科を学びにくるのです。私はこの違いに大きな衝撃を受けました。みんなが普通に英語を流暢に話します、同じアジア圏の学生であったとしても。みんなが当たり前のように英語で意思疎

通をとります。しかし、私は到底そのレベルに達していません。この紛れもない事実こそ、私を最も奮い立たせ、学ぶ姿勢を維持してくれていると思います。そしてそれを後押ししてくれる仲間存在も大切です。一人でも多くの学生と仲良くなって行動を共にしましょう。できれば、ネイティブもしくはそれ相当の話者が望ましいでしょう。それは、それ以下の話者との交流だけだと会話の広がり限界があるからです。英語を話慣れない段階での練習の機会としては良いのですが、やはりネイティブの使う自然なイディオムやフレーズは比べものにならないほど有用で学ぶ機会に溢れています。幸いなことにWSAにはたくさんのニュージーランド人、アメリカ人、カナダ人等がいます。また彼らはアジア人に比べてノリが良いので、仲良くなる遊びにたくさん誘ってくれます。積極



友達とRotoroa islandに行った時の写真



一緒にハイキングに参加した友達との写真



ミッドセメスターブレイクに南島のテカボ湖を訪れた時の写真



友達の誕生日会



寮のパーティー



ワーキングホリデーでNZに来ている
友達と私(右)



南島旅行中に会ったニュージーランダーのマダム

的に参加して交流を深めることが文化の面でも、語学の面でも大きな刺激になることは間違いありません。ただし、飲み会やパーティーのやりすぎは身の破滅です。

次に授業のカリキュラムについてです。今回弘前大学から来ている学生は正規授業の中の英語の講義、つまりアカデミックイングリッシュを習います。この日常会話と学術的な英語の大きな違いは受けてみて初めて感じました。というのも、皆さんが想像しているような文法や発音練習はほとんど扱わないからです。論文の書き方やディスカッションにおける表現といった、大学に入る前の段階の内容をメインとしています。もし、AUTの正規授業を受けたいと思う方は文法や自分の弱点項目を日本にいた間に潰しておくことをお勧めします。これはスムーズに授業に入るための大

きなアドバンテージになることでしょう。とはいえ、私がどこの国に行っても感じるのですが、大切なことはいかに英語を正しい文法で話すかではなく、いかに自分に自信を持って相手と話そうと試みるかです。"Don't be shy"という考えを常に頭に入れておきましょう。

最後はニュージーランドでの生活を通して私個人が感じたことです。それは、この国は良い意味でおおらかで自由な国、悪く言えば何事も対応が雑かつ遅い国、ということです。多くの人は本当に親切で寛大でのんびりとしています。しかしそれは、ビジネスやサービスの面でも同じです。私たちが普段受けている日本クオリティーは通用しません。緊急を要する案件や自分が困っている状況であっても、望む素早い対応が取られないことがほとんどです。これは時に皆さんを苛立たせ、絶望させるかもしれま

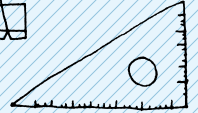
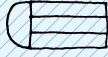
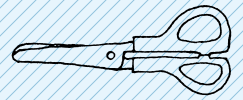
せん。しかし、ここで覚えておいて欲しいことは、そんなネガティブな感情をはるかに上回るほど、ここで、ニュージーランド留学で、通して得られることはたくさんあるということです。困った時は友達も家族も、サポートオフィスのスタッフの方もいます、もちろん私も質問でも意見でもなんでもお応えします、安心して下さい。どうかこれを読んでくださった方の希望の糧になれば幸いです。

最後にこの留学に携わってくださった全ての皆様に感謝申し上げます。ありがとうございました。



\ new face /

新任教員紹介



2018年度から15名の教員が新たに加わりました



人文社会科学部 情報行動講座

講師 花田 真一

4月から人文社会科学部に着任した花田真一です。滋賀で育ち、大学以降は東京、昨年まで5年間は金沢星稜大学で教えていました。近畿、首都圏、北陸に続き東北で4地域目ですが、近江商人の文化で育ったせいか、どこでも楽しく過ごしています。研究分野は実証産業組織論で、統計学入門や統計データ分析の講義を担当します。理系っぽい科目ですが、実験ができない社会科学にこそ必要な知識だと思うので、一緒に楽しく学びましょう！



教育学部 社会科教育講座

講師 大谷 伸治

2018年4月に着任いたしました教育学部社会科教育講座（日本史）の大谷伸治（おおたに・しんじ）です。専門は日本近現代史です。特に、戦前の国体論やデモクラシー論と戦後民主主義・日本国憲法の連続性について研究しております。3月まで6年間、札幌の公立小学校に勤務しておりました。現場での経験をいかして、教科教育と教科専門をつなぐ教育・研究を行っていきたくと考えております。どうぞよろしく願います。



教育学部 社会科教育講座

講師 蒔田 純

4月に着任しました蒔田と申します。これまでは、衆議院議員の政策担当秘書・総務大臣秘書官・経済団体職員等として働いており、政治学・政策過程論を専門にしております。

弘前大学では、シティズンシップ教育・主権者教育に関する教育・研究に力を入れたいと考えております。大学の専任教員は初めてなので、分からないことだらけでご迷惑をおかけすることも多いと思いますが、何卒よろしく願います。



教育学部 音楽教育講座

講師 清水 稔

この4月から教育学部の音楽教育講座で、音楽教育と作曲・理論を担当することになりました。哲学を背景にした音楽の創造行為の研究をしています。日々の音との関わり方、そのものが音楽をつくることであって、生きること自体が作品になっていくものだと思います。歴史と文化のある弘前で教育・研究に携われることに喜びを感じながら、学生の皆さんが、素敵な大学生活をつくり出していく力の一つになれるように努めたいと思います。



教育学部 保健体育講座
講師 益川 満治

4月より教育学部保健体育講座に着任いたしました、益川満治と申します。専門は、バスケットボールを中心としたボールゲーム及びスポーツ（体育）心理学です。弘前は、祖父母の出身地であり、今までも何度か訪れた事もあり何か深い縁を感じております。青森の地で、今までの経験を活かし、授業・研究・地域に貢献できるよう頑張りたいと思います。これからよろしくお願いたします。



教育学部 技術教育講座
講師 廣瀬 孝

4月に着任しました、技術教育講座の廣瀬 孝と申します。出身は宮崎県ですが、弘前に住んで20年になります。「県内産業振興への貢献」をミッションとして掲げていた前職の青森県産業技術センターでは、主に地域資源を原料とした材料開発に携わり、近年は、りんご剪定枝を原料とした活性炭の開発に関する研究を地域の企業と共同に行っていました。微力ではありますが、これまでの経験を活かしながら教員養成に関わり、また地域の課題の解決に対して少しでも貢献できるよう精一杯努力する所存です。どうぞよろしくお願いたします。



教育学部 学校教育講座
教授 宮崎 充治

4月より学校教育講座に着任しました。研究分野は演劇的教育、といっても劇を教えるわけではありません。演劇は、自己と他者、虚構と現実を往き来し、言葉と身体を通して表現する、想像力とコミュニケーションの強力な道具です。その演劇の持つ力を教育の中で生かせないかという研究です。これまで30年間は東京の私立小学校の教員でした。現場と学問を架橋する役割を果たしたいと考えています。よろしくお願いたします。



教育学部 学校教育講座
講師 桐村 豪文

平成30年3月に着任いたしました桐村豪文（きりむらたかふみ）と申します。これまで住居・勤務地が大阪、京都、神戸と近畿から出たことがなく、ましてや東北に居を構えたことはありません。慣れない地ですが、それでも毎日、神々しい岩木山を臨みながら出勤することに大変喜びを感じています。これからはこの地で、教育、研究、社会貢献と幅広く貢献できるよう精進致します。どうぞよろしくお願致します。



医学研究科 救急・災害医学講座
助教 野村 亜南

救急災害医学講座の助教として大学に戻ってきた野村亜南です。現在は救命救急センターの所属ですが、本職は心臓血管外科です。3月までは千葉県の船橋市立医療センターに勤務していました。久しぶりに大学に戻り、病棟業務や手術のほか、救命センター内での急患の対応など、心臓外科医と救急医の二つの仕事をこなしています。今まで学んできた知識を活かし、大学病院での診療を行っていきたくと思っています。宜しくお願いたします。



医学研究科 脳神経病理学講座
助教 今 智矢

平成30年4月1日付で医学研究科、脳神経病理学講座、助教に着任させていただきました今智矢と申します。平成20年に本学を卒業後、10年間市中病院で脳神経内科医をしていました。脳神経内科では、現代の発達した医学でも原因不明・治療法無し、という難病が数多く存在します。難病患者さん達の診療にあたる中で気がついた数々の問題を解決できるよう、病態解明や治療に結びつくような研究をしていきたいと思っています。



理工学研究科 機能創成科学領域
教授 竹内 大介

平成30年4月に理工学研究科物質創成化学科に着任いたしました。これまで、遷移金属触媒を用いた新しい重合反応の開発を行い、新構造をもつユニークな性質を示す高分子を合成してきました。これからは、エネルギー問題の解決という新たな目標を念頭に置き、引き続き触媒・高分子についての研究を進めるとともに、弘前大学発の新しい重合反応を開発し、地域貢献できるよう頑張りたいと思っています。どうぞよろしくお願いたします。



理工学研究科
安全システム工学領域
准教授 前田 拓人

2018年4月1日付で理工学研究科に着任いたしました前田拓人と申します。地震学を専門としております。地震は恐ろしい現象ではありますが、その記録は我々の手の届かない地球内部についての豊かな情報をもたらしてくれるという側面もあります。地震波記録からどれだけ多くの情報を引き出せるか、そしてその知見をどう地域の防災・減災に活かしていくのかといった、基礎と応用両面の研究と教育に取り組んでまいります。どうぞよろしくお願いたします。



農学生命科学部 食料資源学科
准教授 君塚 道史

食料資源学科食品科学コースに着任いたしました君塚道史（きみづか のりひと）と申します。専門は水の状態や材料の結晶・非結晶などに着目した食品保存に関する研究です。総合大学は学生時代も含め、初めての経験です。様々な学部の先生方と繋がりをもって、研究に取り組みたいと考えております。コラボ棟208号室が研究室となります。どうぞよろしくお願いたします。



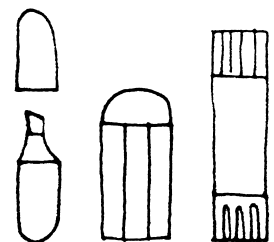
農学生命科学部 食料資源学科
准教授 西塚 誠

平成30年4月1日付で農学生命科学部食料資源学科に着任いたしました。肥満やがんを含む生活習慣病発症の分子メカニズムの解明をめざし、これまで研究に取り組んでまいりました。今後は、疾患発症の分子メカニズムの解明に加え、各種生活習慣病の改善に寄与する新しい食品成分の探索を行うことにより、地域の健康増進に貢献できる研究を精力的に進めていきたいと思っています。どうぞよろしくお願いたします。



農学生命科学部 食料資源学科
助教 山元 涼子

平成30年4月に農学生命科学部食料資源学科食品科学コースの助教に着任いたしました山元涼子と申します。前任は熊本で、これまで九州にしか住んだことがなかったため、4月の東北の寒さにびっくりしましたが、これから弘前の四季の変化を楽しみながら、地域の食材や健康課題と向き合い、「食べ物と健康」を軸に研究・教育に邁進していく所存です。どうぞよろしくお願いたします。



平成30年度 弘前大学学生ボランティア活動 助成団体採択書交付式を実施

学内外でボランティア活動を実施している本学課外活動団体への活動助成費採択書交付式を平成30年6月20日（水）に事務局2階特別会議室で行いました。

交付式では、佐藤学長から今年度申請のあった8団体の各出席者一人ひとりに活動助成費採択書が手渡されました。続いて、各団体出席者から日頃の活動内容について、紹介がありました。

佐藤学長からは、「日頃から、ボランティア活動にしっかりと取り組んでいただいて、本当に私からもお礼を申し上げたいと思います。ボランティア活動は、皆さんの勉強の一環でもあり、そのような機会を与えていただいているということに感謝し、活動を続けて

ほしいと思います。また、皆さんの活動は、地域の方から非常に感謝され、高く評価されており、日々ボランティア活動で学ばせてもらっているという感覚を大切に、引き続き、頑張っていたいただきたいと思います。」と学生の今後の活動に期待する言葉が贈られました。

交付式に続いて懇談会が行われ、各団体出席者から、新入生の加入状況、各団体のPR活動等について、率直な意見交換が行われました。また、各団体の活動について、広く周知を行うために掲示スペースや本学ウェブサイトの活用についても話題となり、今後の活動の充実を図る上でのヒントとなりました。



交付式後の記念撮影

平成30年度 ボランティア活動助成団体

| 団体名 | 申請代表者名 | 所属学部 |
|---------------|--------|---------|
| 環境サークル わどわ | 松本 直也 | 理工学部 |
| さくらボランティア | 菅家 実穂 | 教育学部 |
| SaBoTen（サボテン） | 南雲 美徳 | 農学生命科学部 |
| teens & law | 佐藤 朱莉 | 人文社会科学部 |
| 児童文化研究部KIDS' | 平塚 結梨 | 医学部保健学科 |
| ひまわりサークル | 泉 達也 | 医学部医学科 |
| 僻地教育研究会 | 三浦 良 | 教育学部 |
| キャリアサポート研究会 | 楠美 玲維 | 教育学部 |



編集後記

新学年も始まり、はや数ヶ月が経過しました。本号では特集「新学期を迎えて」として新入生や在学生の声を紹介しています。特に新入生の方々は、今年はじめて弘前公園の桜に触れた方も多かったのではないのでしょうか。

私事ですが、4月の終わりに新幹線で青森から京都まで南下する機会がありました。仙台あたりでは満開の桜を見ることができ、東京あたりではすでに満開の「葉桜」、また京都では新緑の桜でした。日本列島を一気に縦断することで、日本が「南北」に長いことを桜の木々から思い起こすことができました。

「南北」といえば、2018年4月28日に朝鮮半島の「南北」両国が11年ぶりに会談を行い、非核化に関する共同宣言を発表しました。現在、弘前大学に在学している学生の皆さんは、あと10年以内に世界を舞台としての活動が始まります。5年先が予想できないほど、あらゆることが大きく変化していますが、大学での経験を踏まえて、しっかりと大地に根をはることが「生きていく力」になります。

そのためには、弘前大学でのそれぞれの与えられた環境を最大限に生かす。そして、それぞれの得意分野をのびし、視野を広げることです。将来に向かって、それぞれの個性を開花させていきましょう。

(丹治)

弘前大学生協が行う“学生成長支援” パソコン活用講座「大学生生活応援塾」



弘前大学生協では、大学生の学びや成長を支援する様々な事業に取り組んでいます。

その一つに、パソコン活用講座「大学生生活応援塾」(以下、応援塾という。)があります。応援塾は、新入生を対象として毎年5月～6月に開講しているパソコン講座です。期間中、平日は毎日4コマ、5コマ、放課後の時間帯に分けて1クラス1回80分、8週間かけて全8回で開講しています。

講師やスタッフは、すべて大学生生活を経験している弘大生が担当し、自分たちの持つ知識や経験をふまえて新入生へ伝えていきます。



講座内容

Word、Excel、PowerPoint等のMicrosoftOfficeの基本的な使い方からレポート作成のコツ、プレゼンテーションのノウハウまで大学生活で必要なパソコンスキルを実践しながら学習しています。

大学生活は、授業のレポート課題や実験のデータ処理、卒業論文の発表や就活でのメールのやり取り等、パソコンを使用する機会が多くなります。最近ではスマートフォンやタブレットの普及が進み、パソコンを使う機会が減少し、キーボードやマウスの操作よりもフリックやタップに慣れている学生が増えてきていました。

応援塾は2005年に始まって以来、受講生(新入生)のみさんの状況に合わせて、内容を変えながらパソコンの使い方に関することなく、充実した大学生活を送ってほしいという思いで続けています。



スタッフは2～4年生
 総勢 45名。
 半年間の研修を受け、生協職員と一緒に講座のティーチングプランを作成し、楽しく学べるような工夫をしています。

いつでも安心！
 学内に相談窓口があります。

- ・サポートデスク(写真上)
- ・生協店舗 (SHAREA写真下)

※年二回、学内においてパソコンメーカーの技術者が直接相談に応じたり、簡単なメンテナンスに対応する「無料点検会」を開催しています。



■2018年新入生へのPC販売台数 Windows 630台/Mac 89台 計719台
 応援塾受講生は522名です。パソコン購入者の半数以上、新入生の3分の1以上からのお申込がありました。

■他にも「英会講座 ACE」や「学びと体験・出発(たびだち)講座(通称:まなたび)」など学生の成長支援を行っています。

受講者数:ACE 241名・まなたび 191名(内、前期のみ140名)

弘前大学

検索

トップページ▶大学案内▶刊行物▶学園だより
バックナンバーをご覧ください。

学園だよりに関するご意見がございましたら、下記のアドレスまでお寄せ願います。

弘前大学学務部学生課 e-mail:jm3113@hirosaki-u.ac.jp



弘前大学
学園だより

vol.193 / 2018年6月発行

編集：国立大学法人弘前大学「学園だより」編集委員会

委員長／平野 潔（教育委員会）

委員／横地 徳廣（人文社会科学部）

鈴木 愛理（教育学部）

丹治 邦和（医学研究科）

牧野 美里（保健学研究科）

丹波 澄雄（理工学研究科）

大河 浩（農学生命科学部）

澤田 祐子（学生課）

成田 勇一（学生課）

印刷：コロニー印刷